

はじめに

校長 小野 誠子

本校は、いわき市に仮設校舎を設け四年となる。

現職教育として実践している本研修は、テーマを一年目「～子供一人一人に寄り添う支援をとおして～」、二年目「分かる授業・寄り添う支援～毎日の振り返りを通して～」、そして三年目が『「分かる」「できる」授業づくりと授業改善』としてきた。

そして四年目の今年度は、『「分かる」授業づくり』から『チームで改善「考える・できる」授業づくり』へとテーマを進めた。

東日本大震災・原発災害からの避難・環境の変化は、児童生徒の学力・基本的な生活する力や学習意欲などを減退させた。三年間の時間の経過は、児童生徒の心や生活において落ち着きを取り戻し、教師集団の『「分かる」授業づくり』を目標とした日々の指導とともに、児童生徒に分かる喜び、できる喜びを多く実感させ、学びへの意欲に結びつけてきた。この三年間の児童生徒の成長と実践成果を踏まえ、今年度はよりたくましい力を育めるよう、授業づくりの観点を「伝える力」を「考える力」に、「選ぶ力」を「表現する力」とし、本研修を進めてきたところである。

また、本研修を進めるに当たり、研修を支え本校の教育活動にとって不可欠なものが「振り返り」である。児童生徒一人一人に対する障がいの特性、学習の課題、指導方針を、教師集団が共有する有効な手だてであることは、これまでの実践で教師一人一人が実感している。今年度は、振り返りのスケジュールは研修部が準備するが、いかに教師集団が主体的に運営できるかが課題でもあった。

本校の研修の特色は、研修のための授業研究ではなく、日々すべての教育活動が研修成果となることである。

各学級の児童生徒の実態・特性を踏まえた教室環境作り、日々の授業の中で児童生徒が主体的に学べるように準備する教材・教具づくり、日々の授業の計画・実践・振り返り、これらを教育活動を進める上で当たり前に必要なこととして実践していることが、すべて記録され本研修のまとめとなっている。

公開される研究授業は、基本的に日常の普通の授業を見ていただくこととしている。また、様々な授業公開の場面では、担当者全員が研修目的である「考える力」「やってみる力」「表現する力」「興味を持つ力」の4つの観点を、指導目的のまとめ略案を提示することができるようになっている。

育てたい力を共有化し学習指導の目標として意識し、「教室環境」「教材・教具」「振り返り」の項目で互いに確認し、目標の達成度を評価し、次年度につなげていく研修体制は、小規模校であることを幸いとし、大変な環境の中で学部を超えて同じ視点を持って児童生徒を大切に育てなければという、共通の認識を持った教師集団であるからこそ、遂行できる研修であったと考える。

平成28年度より、着実に児童生徒数が増え、そのことに伴い職員数も増し、さらに平成29年度から、二つの離れた校舎で一つの学校としての学びを展開する本校である。仮設校舎となった日から、本校独自の、本校ならではの研修を展開してきた。

今、平成27年度のまとめをするに当たり、環境が変化する中で、形を変えても、いかに教師集団が『育てたい力を共有化し学習指導の目標として意識し、「教室環境」「教材・教具」「振り返り」の項目で互いに確認し、目標の達成度を評価し、次年度につなげていく研修』ができるか試されている。

最後に、私たち教師には想像し創造する力がある。そのことが子供たちの力を育み、子供たちの未来となる。研修が、そのことを語り合う時間となることを願う。